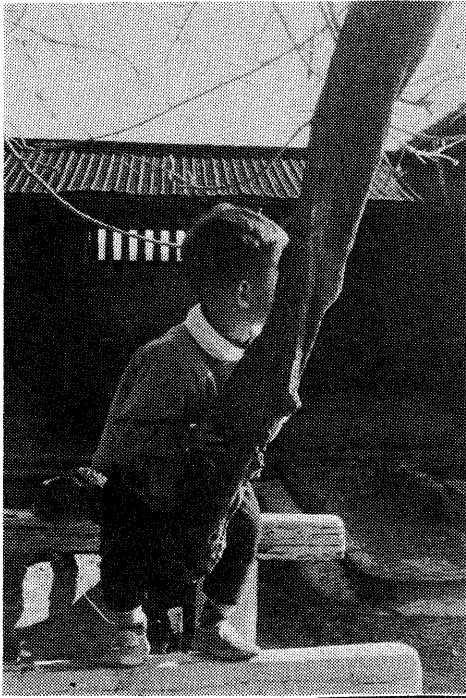


農村の保育園の記録③  
磯部景子

藤の木 VI

秋に入園したばかりの年少児の  
子どもたち

あっちをみたり

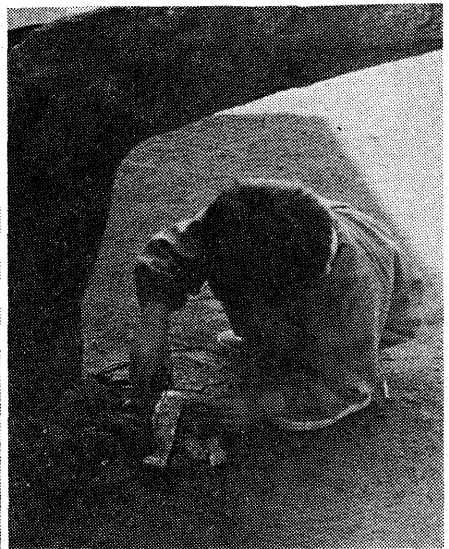


こっちをみたり

## 藤の木 VII

藤の木のささえ

藤の木をささえている白い木のわくはある日パーマンの城になる。別の日にはうさぎの家になっていて子どもたちがびよんびよんとび出してくる。



## 金魚の墓 VIII

②庭にさいているコスモスを一輪とってきてくる。

①つくったお団子を持ってくる。コンクリートのかげらを拾ってくる。

③ いく日かたったある日、子どもがさぎさの貝殻をみっつどこからか拾って来て、手洗い場で遊ぶ。子どもたちが帰ったあと貝殻は手洗い場にある。

次の日の朝、別の子どもが手洗い場で貝殻を見つける。貝殻に水を入れて金魚の墓のところに持っていく。旗をつくる。コンクリートのかげらをたてる。タイルのかけらを運んでくる。

③  
←



④ また、いく日かたったある日、別の子どもたちがタイルやかわらのかけらを運んでくる。貝殻の中をのぞいて、どろやごみが入っているのを見て、「水をくんでこよう」といつてきれいな水をくんでくる。わり箸に木の実をさして立てる。旗をつくる。十字架をつくる。子どもたちが帰ったあと、先生は、広い庭を手わけして、掃除をする。子どもたちが拾ってきたものやつくったものは、そのまま、そっとおいてある。

④  
←

